

第2回

「図書館とまちづくりワークショップ」

日時 : 平成28年10月22日(土) 15:00~17:00

場所 : 生駒市図書館 3階市民ホール

コーディネーター : 糸賀雅児教授

ファシリテーター・書記 : 各班に1人 (第1回に同じ)

参加者 : 21人 (A班7人/7人、B班7人/7人、C班7人/8人)

内容

A班、B班、C班に分かれてグループワーク

- ・「生駒はどんなところか、生駒の魅力」を桃色の付箋に記入して、分類する。
- ・「図書館で何ができるか、利用者である私は何ができるか」を桃色の付箋を踏まえて話しあい、黄色の付箋に記入して分類する。
- ・「提案」を黄色の付箋を踏まえて話し合い、青色の付箋に記入
- ・各班発表

【各班の付箋意見は別紙参照】

【要旨】

A班

①生駒を知ろう

- ・生駒の魅力は「自然」「歴史」
- ・ところが、それが学校教育や社会教育の中で学習できていないように思う。
- ・そこで、図書館を中心にして遊びの場、発信の場としたい。
- ・つまり、図書館は市(行政)や人(市民)にとって情報発信基地の役割を果たす。
- ・里山系・自然系ボランティアによるイベントとのコラボ企画、文化イベント開催

②居場所

- ・市内に5ヶ所ある図書館・室は、市民にとって、ちょうどいい場所にあり、人が集まったり学んだりするのにいい環境が整っている。
- ・そこを生かして、ボランティアの拠点となるのではないか。
- ・文化的なものについても、多方面に情報を発信できる。
- ・ボランティア、学びたい人の集まり等、さまざまな活動をスタートできる場にする。
- ・図書館に行けば「いつも何かいいことがある」と市民が思えるようになればいい。
- ・イベントがある、知りたい情報がある、楽しいことがある、そんな場に。

③教育

- ・公共図書館が5つ、学校にも図書室がある。各々は熱心に活動しているが、ネットワークが弱いように思う。
- ・家庭を含めて図書館相互の連携で、幼いときから小学校、中学校、高校へと成長を支援できないか。
- ・人が関わりあいながらネットワークを作り、時がつながり人がつながることができればよい。

④図書館

- ・図書館を使いやすく（環境、開館時間、職員の対応）し、地域で問題を抱える人たちが足を運べる場にする。
- ・静かな場所を提供するだけでなく、語り合える場にしたい。
- ・そのためには、いつも顔の分かる話しかけることができる司書がいる場でなくてはならない。

B班

「生駒はどんなところか、生駒の魅力」（桃色付箋の分類）

「安全・安心」「利便性」「自然」「子育て」「図書館」「民度」「国際都市」「歴史」

「図書館で何ができるか、利用者である私は何ができるか」（黄色付箋の分類）

「夜の図書館」「出会い」「居心地」「親子・子ども」「つなぐ」「学ぶ」「イベント」
「選書サービス」「国際交流」「社会とのつながり」

提案（青色付箋）

①昼、夜で飲食できるスペース

- ・図書館は人と人との出会いの場
- ・昼には子どもが楽しく学べたり、親子で気兼ねなく過ごせ、夜には日頃、図書館を使わずスナックに行っているようなおじさん達が行きたいと思うような図書館、そこでお酒など飲食ができ、また、異性とも出会える場所になるとよい。
- ・プロフェッショナルな人の話などを聴ける学びの場

②出張図書館（飛び出す図書館）

- ・図書館から外へ出かけて行きイベントを行う。
- ・五感（視覚、聴覚、触覚、味覚、嗅覚）を使った朗読会
- ・生駒は自然が豊かで田畑もあるので、田植えの時期に実習と図書館の本を使っての座学を行う。
- ・音楽と本とのコラボ

③図書館コンシェルジュ

- ・自分に合ったおすすめの本を司書が選んでくれるサービスがあればよい。
- ・インターネットやツイッターでも自分に合ったおすすめ本が紹介されるが、「人」が紹介してくれるところに意味がある。

④国際交流できる催し

- ・生駒市には約60ヶ国を出身地とする市民がいる。そんな外国人との国際交流ができた
り、外国人の子ども向けに多言語のおはなし会ができればよい。
- ・図書館に行くことで、留学気分が味わえたり、海外の音楽の音源を聞くことができれよい。

⑤社会へのとびらボランティア

- ・不登校の子どもたちが図書館の仕事を通して社会とのつながりをもてる場があればよい。

C班

「生駒はどんなところか、生駒の魅力」（桃色付箋の分類）

「自然」「利便性」「施設」「市民力」「子育て」

（黄色、青色付箋の分類）

①イベント

- ・美術館、博物館、映画館がないので補完できるイベント
- ・生駒駅前図書室のある施設の広場で青空イベント、いまこいバルとタイアップイベント、ブックカフェ等
- ・年齢別（高齢者含む）ビブリオバトル開催。ビブリオバトルをビデオ撮影して高齢者など在宅者が本を選ぶ参考にしてもらう。

②学び

- ・理科の実験イベント、子ども歴史・数学研究会、夏休み子ども勉強会
- ・中学生がもっと行きやすい場に

③アクセス（場としての図書館）

- ・近所の図書館以外にも行けるような図書館間の移動手段
- ・本を動かすより人を動かす

④情報発信

- ・SNS、電車の広告の活用

糸賀教授コメント

- ・どの班にも共通していたのは、図書館という建物は動かさないで、人や本、情報を動かそうという発想。
- ・リアリティのある提案になっていた。
- ・チームの論議が活発で、民度の高さを感じた。
- ・次回はよいよ最終回。それまでの2週間で、各々が図書館資料を活用して最終案をまとめ、具体化するための学びや準備をしてもらいたい。



糸賀教授コメント



A班



B班



C班